

AIチャットとカスタム要約の違い

YOMELを単なる議事録ツールから
「最強の業務支援AI」に変える実践ワークフロー

議事録における「5つのよくあるお悩み」

形を整えたい（型の悩み）



YOMELの要約は便利だが、
自社の報告形式に合わせたい

ToDoや決定事項だけをすぐ取り出したい

上司や関係者に共有しやすい形に、まとめ直したい

中身を探求したい（探索の悩み）

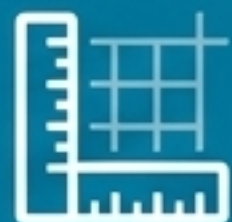


会議後に、特定の論点だけ確認したい

会議自体の分析、参加者の感情分析をしたい

これらの課題は、YOMELの『2つの機能』を使い分けることで全て解決します。

結論：2つの機能は「役割」が全く異なる



カスタム要約

会議内容をあらかじめ決めたフォーマットに沿って整理する。

[定型化]

[標準化に強い]

VS



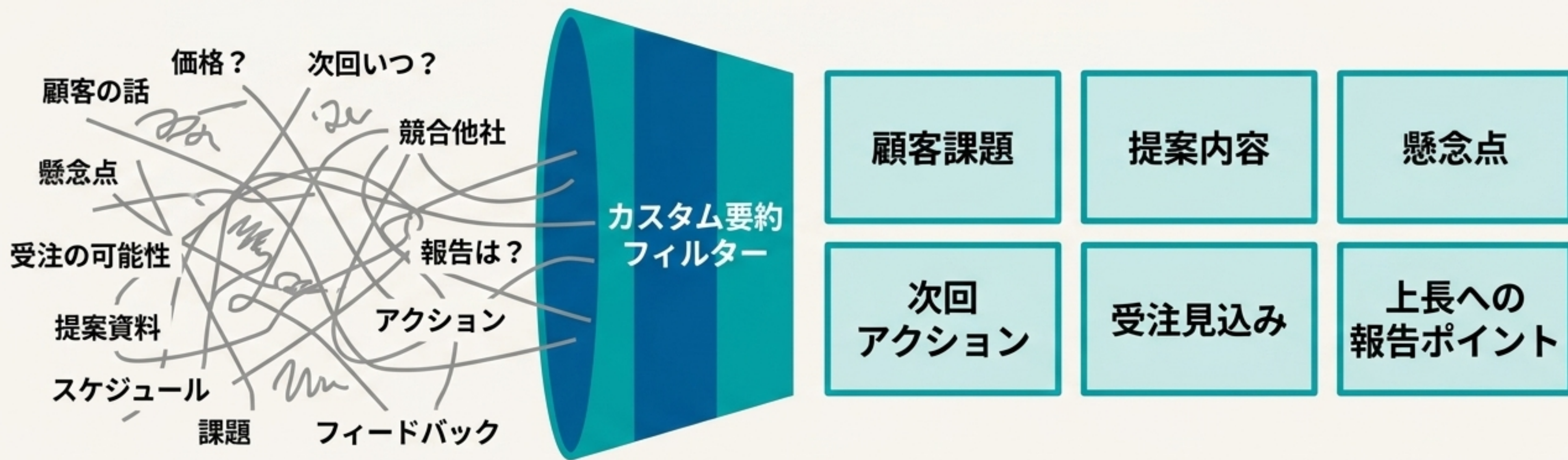
AIチャット

会議内容に対して、あとから自由に自然文で質問できる。

[深掘り]

[探索・確認に強い]

カスタム要約とは： 「自社の型」への自動変換



毎回同じ観点で整理できることが、カスタム要約の最大の強みです。

カスタム要約が向いている 業務シーン

営業商談

→ 商談メモ、
顧客課題、次
回アクション
の整理

定例会議

→ 決定事項、
ToDo、課題、
継続確認事
項の整理

採用面接

→ 評価項目ご
との整理、
懸念点の抽
出

カスタマー サクセス

→ 顧客要望、
活用状況、
解約リスクの
整理

社内報告

→ 上長向けサ
マリー、経
営会議向け
要点整理

ポイント：毎回同じ形式でアウトプットしたい業務に最適。

AIチャットとは： 過去の会議との「対話」



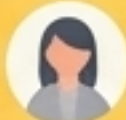
上司に30秒で報告するなら？



次回までに自分が対応すべきことは？



顧客が不安に感じていた点は？



この会議で決まったことを教えて

必要な情報をその場で自由に取り出せるのが、AIチャットの最大の強みです。

AIチャットが向いている業務シーン

会議後の確認

聞き逃した内容、決定事項、宿題の確認

上司報告

要点だけを短くまとめる

顧客対応

顧客要望や懸念点を再確認する

議論の深掘り

リスク、論点、未解決事項を洗い出す

ナレッジ活用

過去会議の内容をもとに次のアクションを考える

ポイント：会議後に自由に問いかけ、思考を拡張できるのが強み。

迷ったときの判断基準はシンプルです

事前に欲しい形が決まっている

-> [カスタム要約
を選択]

- | | |
|--|--|
| | |
| | <ul style="list-style-type: none">• 営業報告フォーマット• 定例会議の固定構成• 面接の評価項目 |

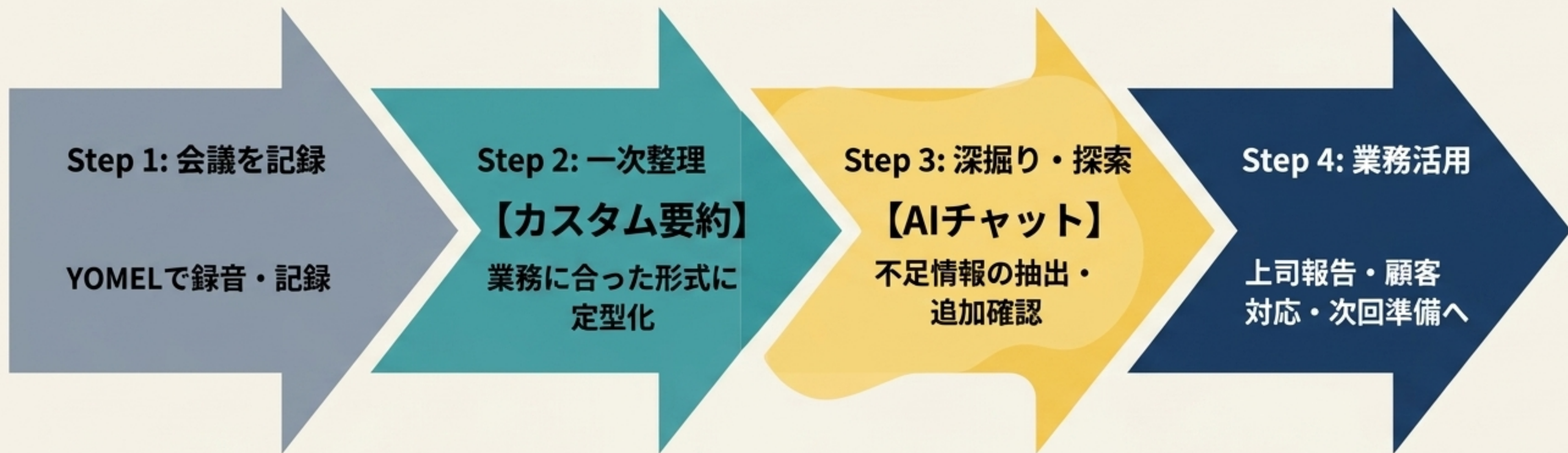
あなたが
欲しい
情報は…？

あとから聞きたいことが変わる

-> [AIチャット
を選択]

- 特定のリスク確認
- 顧客発言からの戦略検討
- 抜け漏れチェック

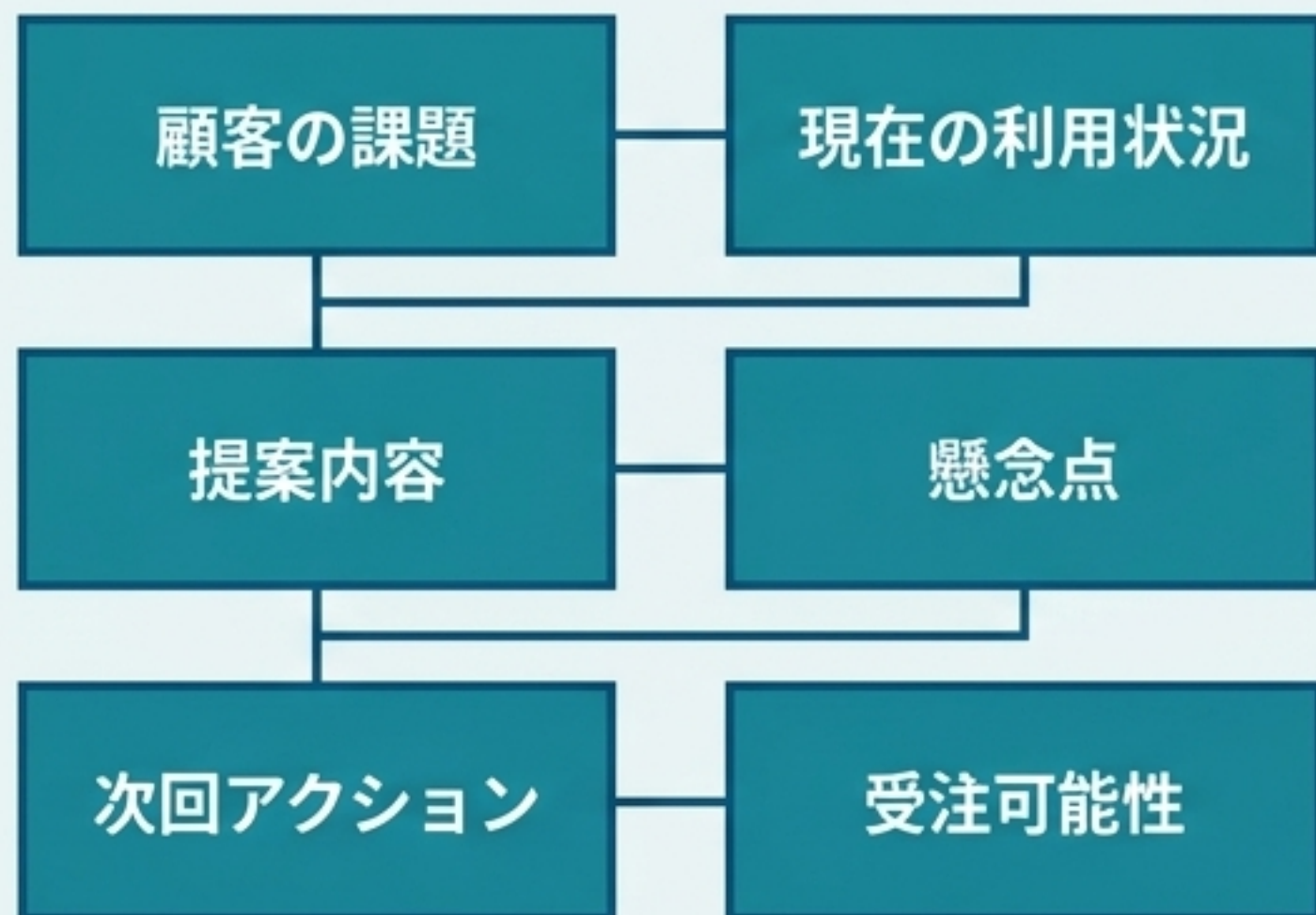
実務での「最強の活用ワークフロー」



「どちらか」ではなく、『カスタム要約で一次整理し、
AIチャットで深掘りする』のが最も強力なアプローチです。

具体例 1：営業商談の場合

カスタム要約で整理する内容



記録の整理はカスタム要約で自動化

AIチャットで確認する内容

「顧客が一番気にしていたポイントは？」

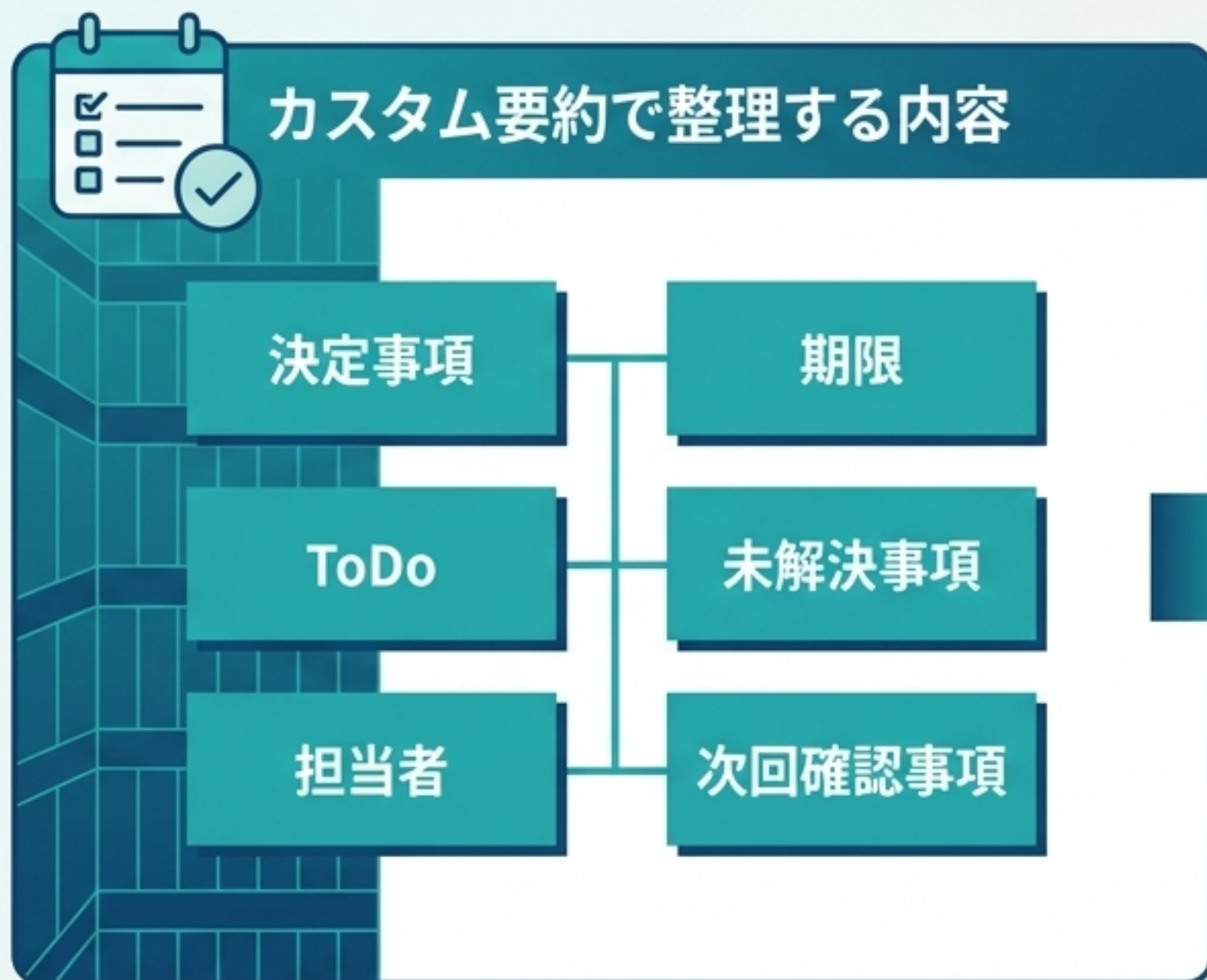
「失注リスクはどこにある？」

「次回提案で強調すべき点は？」

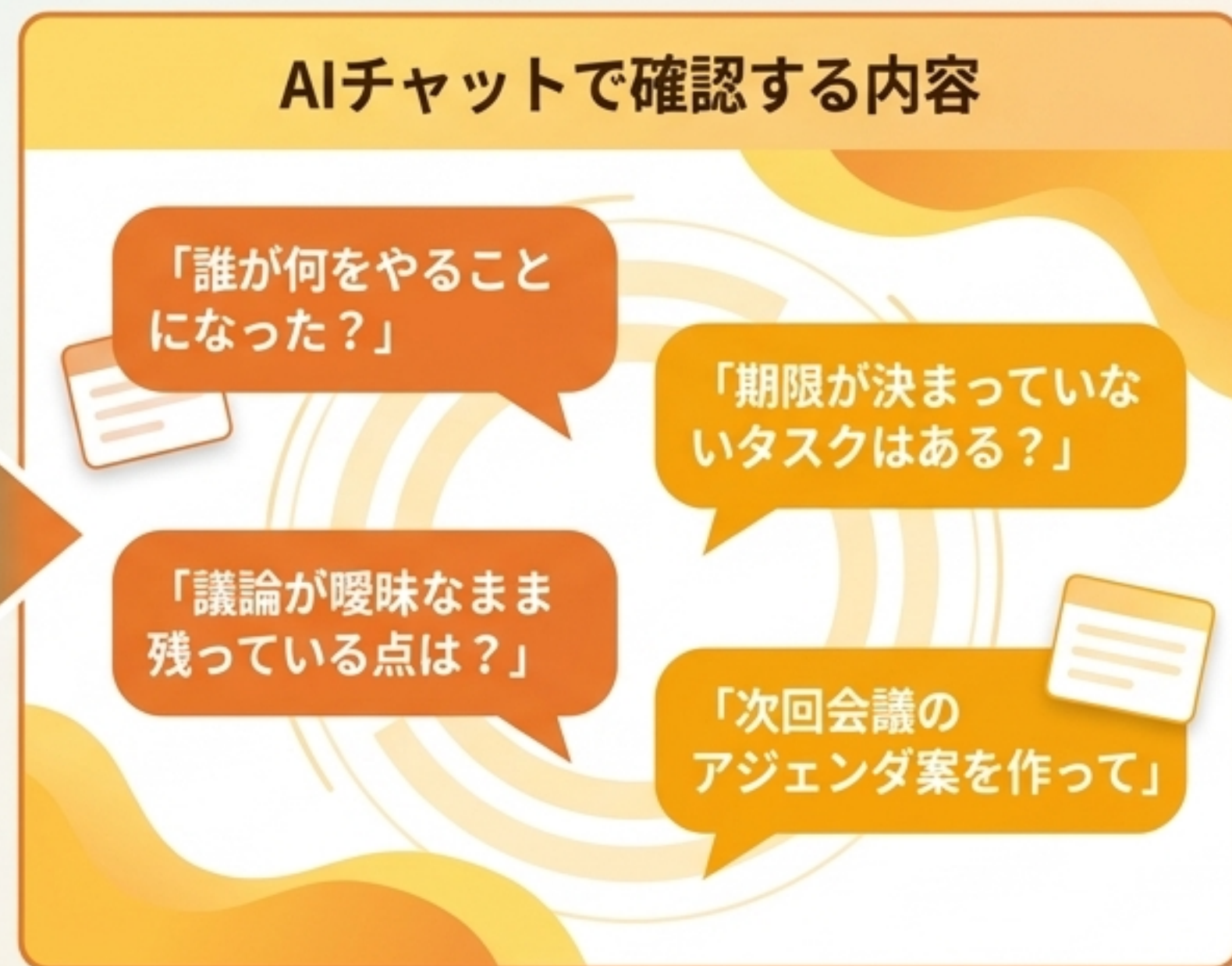
「上長に報告するなら何を伝えるべき？」

商談の振り返り・戦略検討はAIチャットで対話

具体例 2：社内定例会議の場合

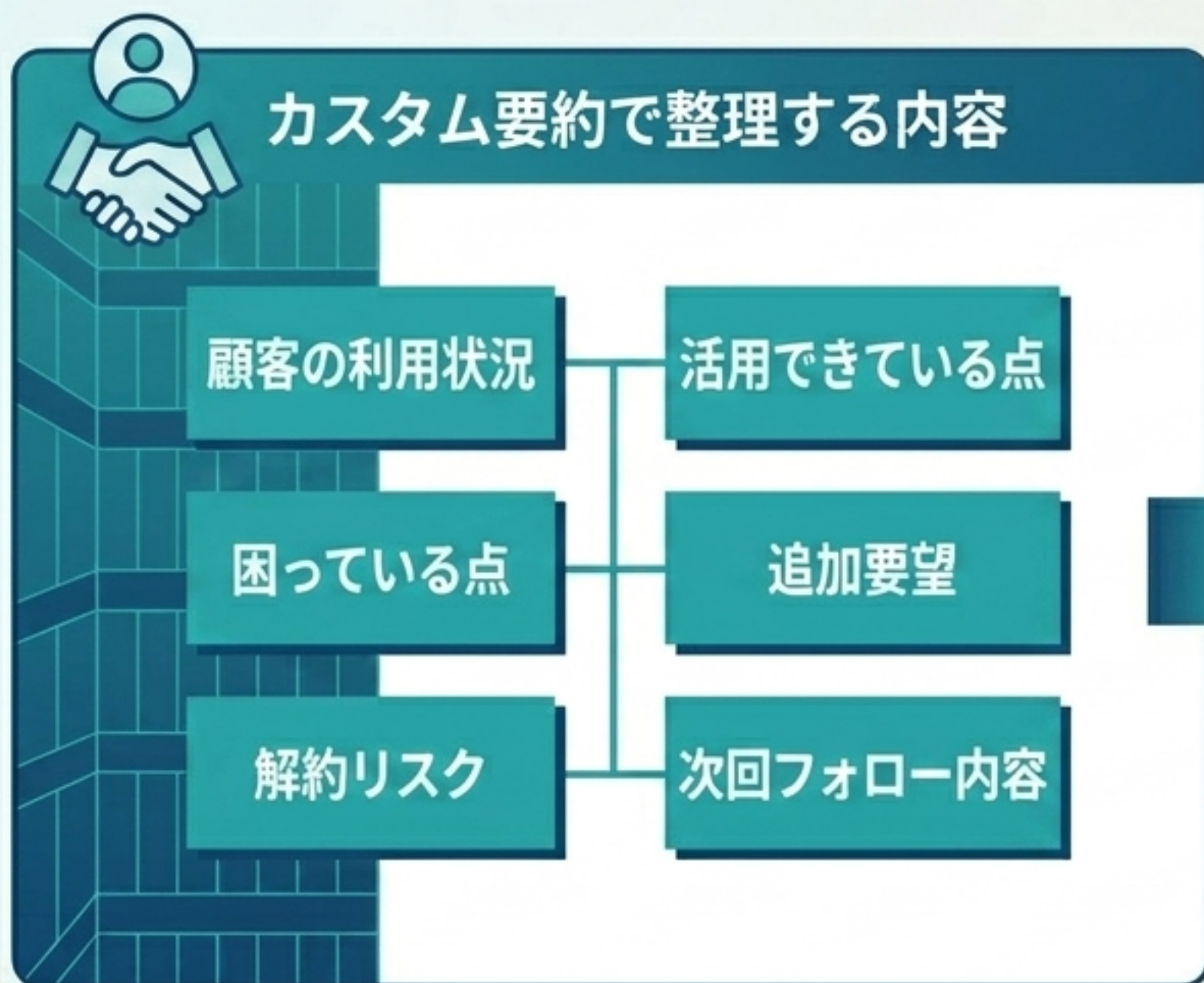


議事録の型化・構造化はカスタム要約で

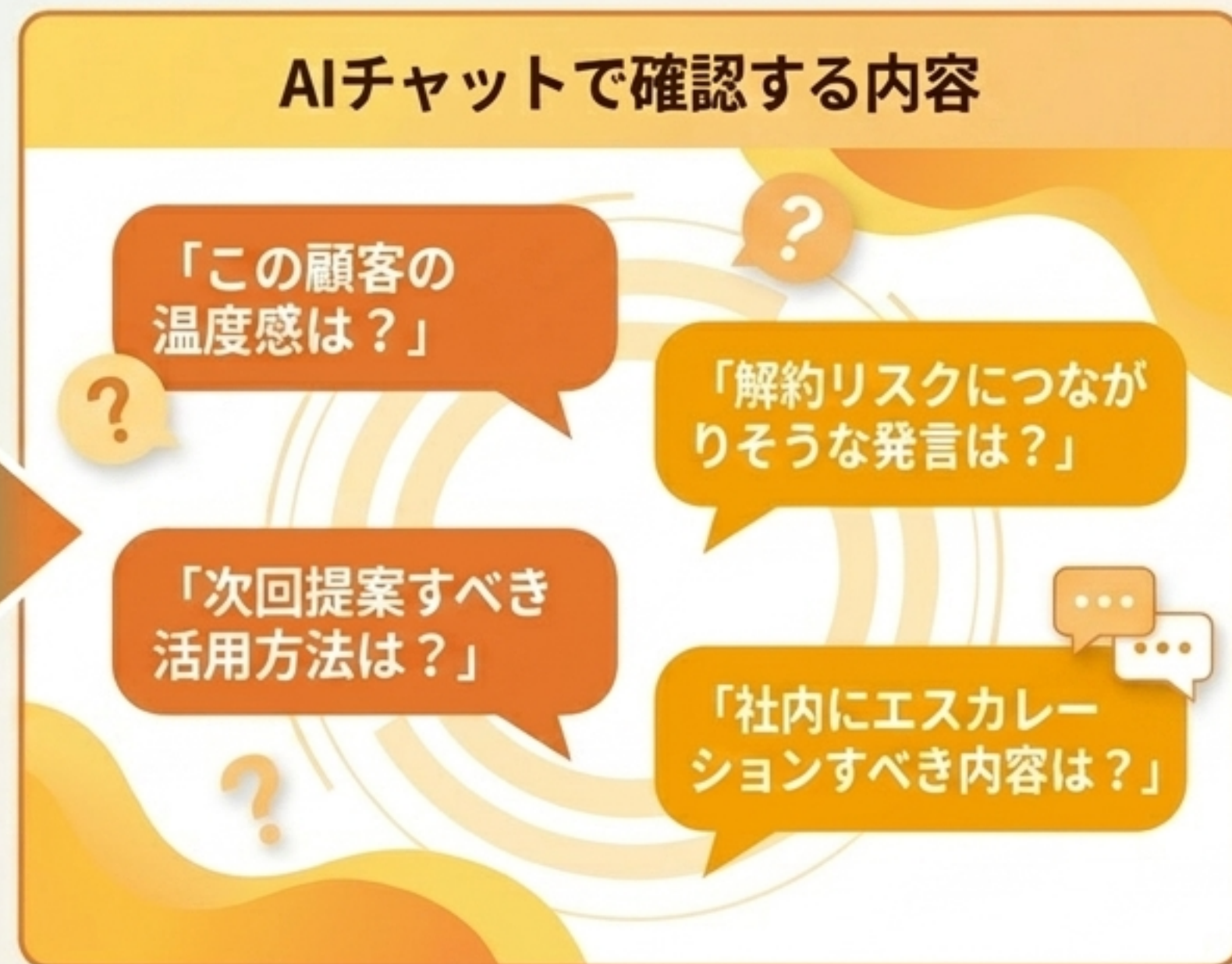


運用改善・抜け漏れの確認はAIチャットで

具体例 3：カスタマーサクセスの場合



顧客状態の正確な記録はカスタム要約で



次の打ち手・アクションの検討はAIチャットで

Master Comparison Matrix: 2つの機能の比較まとめ

	カスタム要約	AIチャット
役割	決まった型で整理する	自由に質問する
タイミング	会議後すぐの整理	会議後の確認・深掘り
得意なこと	標準化、報告、共有	探索、分析、補足確認
向いている業務	定例業務、報告業務	個別確認、判断支援
使い方	テンプレート化	質問・対話
効果	作業の再現性が上がる	情報活用の幅が広がる

会議を「記録して終わり」にしないために

1. The Form (型)

カスタム要約で、会議内容を自社の業務に合った形に標準化する。

2. The Freedom (自由)

AIチャットで、標準化された記録から自由にインサイトを引き出す。

3. The Future (未来)

両方を組み合わせることで、YOMELは「議事録ツール」を超えた「業務支援AI」へと進化する。

**YOMELに蓄積されたデータは、次の行動を生み出す『情報資産』です。
今日から、最強のワークフローを実践しましょう。**